



www.alpajapan.org

日乗連ニュース

ALPA Japan NEWS

Date 2005.04.25 No. 28 - 26

発行:日本乗員組合連絡会議・ALPA Japan
幹事会
〒144-0043
東京都大田区羽田5-11-4
フェニックスビル
TEL.03-5705-2770
FAX.03-5705-3274
E-mail:office@alpajapan.org

IFALPA 総会 Committee C 報告

南アフリカ・ケープタウンで4月8日から12日にかけて行なわれた IFALPA 総会の Committee C において、Accident Analysis(AA), Aerodrome & Ground Environment(AGE), Aircraft Design & Operation (ADO), Dangerous Goods(DG), Helicopter(HEL)の5つの Committee から全体会議に提案される Policy 案が、33カ国、44名の代表によって討議されました。

AA committee からは、この1年間討議を重ねてきた「Non-punitive culture」を含む、Voluntary Incident Reporting Systems を IFALPA Policy に追加する提案が、AGE committee からは、Taxiway Center Line Lights、Runway End Safety Area (RESA)、Stop Bar、Fencing、の提案がありました。

RESA (滑走路端安全区域)については、「滑走路末端から1000ftの安全区域を設けなければならないとする事」を ICAO 標準にアップグレードすること、に加え ALPA Japan の意見が反映されて「RESA と安全性が同等ならば区域を設定する代わりに代替措置として緩衝材も可」とされて、すべて採択となりました。

また ADO committee からは、Emergency Situation Commercial Aircraft Performance Enhancement (ESCAPE)、Head Up Display (HUD) Systems、In Flight Fire Fighting の提案があり、全ての議案が採択されました。昨年採択された Policy、Automatic Spoiler/speed brake in flight retraction に関しては、過去の事故調査の報告を踏まえ、GPWS、Wind shear から回避するため最大の性能を発揮できるよう Draft Policy ESCAPE に修正しました。スイス航空の事故調査結果から、ICAO の Policy に加え、特にコックピット内での火災、煙に適切に対処でき安全に着陸できるよう、In Flight Fire Fighting を Draft Policy として採択しました。

さらに DG committee からは、放射線測定装置の使用、NOTOC-S/L 通知書の内容の見直し、郵便による安全輸送の明確化、カテゴリ-B 輸送条件の明確化、以上4つの ICAO ANNEX 18 に対応した部分、その下部規定で技術指針の改定に伴う新たな IFALPA Policy の提案があり、採択されました。

最後に、ALPA Japan 館野 AA 委員長が「事故調査と刑事捜査の分離」を訴える ALPA Japan ビデオのプレゼンテーションを行ないました。会場の参加者からは「昨年東京で行なわれた、各国のパイロットが参加した IFALPA 統一行動は過去に例がなく、世論、裁判に大きく影響を与えたと同時に IFALPA が内外に認知された成功例である」と改めて評価されました。

